

# 鶴舞中央図書館【昭和区】

## 【歴史】

1923(大正12)年10月1日、鶴舞(つるま)公園に市立名古屋図書館が開館し、現在に続く名古屋市図書館の歴史がスタートしました。9月1日に発生した関東大震災に配慮し、先立って行われた開館式は簡単なものでした。図書館建設要望は早くからありましたが、時機に恵まれず、大正天皇の即位の記念事業として、1915(大正4)年に市会で市立図書館建設案が可決され設立の運びとなりました。



市立名古屋図書館

当初は、和漢書約4万冊・一般書約2万冊・特別図書・洋書などの蔵書で始まりました。特別図書には、1916(大正5)年に完成した『名古屋市史』編さん資料も含まれており、現在でも貴重な資料です。



名古屋市鶴舞図書館

1925(大正14)年、読書相談係を設置し、資料案内や資料相談を始めました。1929(昭和4)年には全国的にも非常に早く点字文庫が開庫しました。視覚障害者の大きな期待を集め、中でも文学や医学の図書が多く利用されました。

戦時体制の中、1938(昭和13)年には名古屋陸軍病院に入院中の兵士の慰安のため軍人慰安文庫が設けられ、図書を提供したこともあります。1945(昭和20)年3月19日、焼夷弾(しょういだん)の直撃を受けて本館が焼失しましたが、幸いにも一部の図書を救うことができました。

本館焼失後の8月1日、焼け残った一室を利用して貸出を開始しましたが、不安定な世相のため本格的な再建には時間がかかりました。1949(昭和24)年3月22日、市会において市制60周年記念事業として再建が議決されました。1952(昭和27)年8月1日、名古屋市鶴舞図書館と名称を変え、名古屋の読書の殿堂として大きな期待が集まる中で10月1日に開館しました。

新図書館は積極的に館外への資料貸出を行い、たくさんの方々に利用されました。1959(昭和34)年には第2期工事が完成し利用者も一段と増加しました。

1964(昭和39)年に名古屋市鶴舞中央図書館と名称を変更、栄図書館と熱田図書館を分館とし、現在の中央図書館・分館のしくみができました。またこの頃、各区に図書館を設置する市の方針が固まり、1965(昭和40)年から順次分館が開館しました。

1984(昭和59)年4月6日に現在の図書館が開館しました。当時日本最大級の公共図書館で1階に「暮らしと教養のフロア」、2階に「調査・研究のフロア」、3階に書庫を設け、読書と調査・研究、資料保存の総合図書館となりました。



名古屋市鶴舞中央図書館

現在、中央図書館と20分館および自動車図書館が力を合わせ、名古屋の読書と学習、資料保存、資料を媒介とした市民交流の拠点としてより親みやすく役立つ図書館を目指しています。

## 【現在のサービス】

1階には児童室、読み物や実用書を中心とした一般コーナー、点字文庫、集会室などがあります。

児童室は児童図書研究室を備え、全館の児童サービスに役立つ豊富



児童室

な資料をそろえています。児童・生徒のみなさんの読書活動を支援するために、鶴舞中央図書館始め各区の図書館では、学校を訪問し、本の読み聞かせやブックトークを行っています。ブックトークとは、テーマに沿った本を、本と本との関係性を重視しながら効果的に紹介するもので、子ども達に「読んでみたい！」という気持ちになってもらえるように工夫しています。積極的なブックトークは本市図書館の特色でもあります。

点字文庫は、全国的にも豊富な点字図書と録音図書を所蔵するとともに、対面で本を読み上げる対面読書を通じ視覚障害のある方へのサービスに努めています。

また、中学生以上の10代に向けたティーンズサービスを行っています。鶴舞中央図書館はじめ多くの図書館に、小説や進路の参考になる本を集めた「ティーンズ・コーナー」があります。広報誌「ごちゃっと」は読書に興味がもてる話題が満載です。

2階はレファレンスサービス（参考調査）に重点をおき、「人文・社会科学」「自然科学」「文学・芸術」「郷土・新聞」の4つのテーマにわけ、資料・情報サービスを行っています。

日本について外国語で書かれた本を集めた BOOKS ON JAPAN(ブックス オン ジャパン)コーナーや、友好都市である南京市の金陵(きんりょう)図書館から贈られた中国語図書を提供する金陵図書館交換資料コーナーもあります。

また、2階郷土資料・新聞コーナーでは、名古屋や愛知に関する幅広い資料を収集し、調査・研究・読書に役立てていただけるよう努めています。地域に関する150ほどのテーマで新聞記事の切り抜きをしています（クリッピング）。名古屋のことを調べるなら、名古屋の図書館で！が合言葉の「名古屋なんでも調査団」。みなさんの調査のお手伝いをします。

さらに名古屋市図書館では、所蔵している図書は原則どんな図書でも1冊は廃棄せずに中央図書館の書庫に集めて永年保存しております。古い本も長く提供できるしくみを整えています。

## 【インターネットでのサービス】

1996(平成8)年、全館オンラインシステムを導入し、コンピュータでの資料管理や貸出を開始しました。2001(平成13)年にはホームページを開設し、2006(平成18)年には「こどもページ」も開設しました。

2009(平成21)年からは、共通貸出券番号とパスワードでマイページにログインすることで資料予約が可能となりました。そのほか、行事案内や調べ物案内、おすすめ資料などをご覧いただけます。

ホームページ内の「名古屋なんでも調査団」です。

<http://www.library.city.nagoya.jp/reference/nandemo.html>

## 【ヨンデルー】

名古屋市子ども読書活動推進計画のマスコットキャラクター「ヨンデルー」は本が大好きなカンガルーです。

ホームページの「ヨンデルーのへや」では活動の様子を紹介しています。



名古屋なんでも調査団  
レフランスサービスとは レフランス事例集 なごやりそへち 順序操作 メールレフランス  
名古屋なんでも調査団 なごやカシンダー<sup>◆</sup>名古屋なんでも調査団とは ◆調査団よりお知らせ ◆調査団報告書 ◆なごやカシンダー<sup>◆</sup>名古屋物語 ◆きみも調査団  
「名古屋なんでも調査団」とは

7名古屋 5なんでも 調査団 8

一、名古屋についての資料をどこよりも揃え、  
一、名古屋のことならどこよりもしつこく調べ、  
一、名古屋のことを調べているみんなのお手伝いをどこよりもする  
この心意気こそが、我ら、名古屋なんでも調査団

## 西図書館【西区】

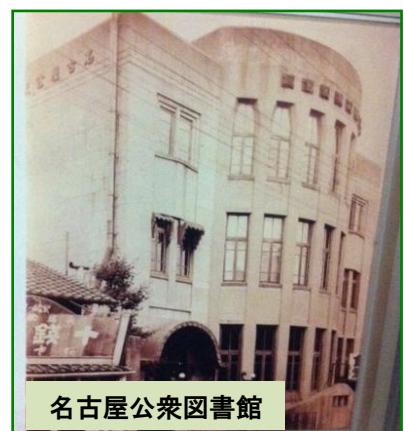
西図書館は、1925(大正14)年4月19日に東区武平町(ぶへいちょう)に開館した財団法人名古屋公衆図書館に始まります。

創設者の矢田績(やだせき)は、和歌山県に生まれ、慶應義塾で福沢諭吉に学び、銀行家として活躍しました。三井銀行名古屋支店長として着任後、名古屋との縁ができ、名古屋発展に尽くしました。「一般的読書趣味の普及と常識開発の意味から」一般の人が利用できる図書館が必要という熱い思いが設立に結びつきました。

1939(昭和14)年に名古屋市に寄贈され、市立名古屋公衆図書館として再スタートしました。戦時中も焼失をまぬがれ、1952(昭和27)年には名古屋市栄図書館と名称を改めました。

1956(昭和31)年、自動車による巡回文庫サービスを開始し、図書館を利用できなかつた多くの市民に歓迎されました。

栄図書館は老朽化や社会教育施設の分散配置の必要性から西区に移転し、名古屋市西図書館と改め、1965(昭和40)年11月1日に新しく開館しました。1994(平成6)年6月1日、現在の建物に改築し、西文化小劇場と共に建物になりました。名古屋城の西側に位置するため、名古屋城や城に関する資料を集めた名古屋城コーナーがあります。



名古屋公衆図書館



西図書館

### 【作家・城山三郎と名古屋公衆図書館】

中区に生まれ、『落日燃ゆ』『官僚たちの夏』など社会小説で知られる城山三郎氏[1927(昭和2)～2007(平成19)]は名古屋公衆図書館で生涯の伴侶と出会いました。1951(昭和26)年早春、一橋大学生で帰省中の城山氏は「幕末以来の名古屋経済人たちの景気循環への対応」を調べるため(⇒『中京財界史』)経済の本が多い公衆図書館へ出かけます。ところが「本日休館」の札が出ていて困っていると、たまたま「間違って、天から妖精が落ちて来た感じ」の女性と出会い、のちに結婚することになりました。参考『そうか、もう君はいないのか』(新潮社)

## 熱田図書館【熱田区】

1960(昭和35)年9月1日、熱田神宮内に開館しました。前年東邦ガス株式会社より名古屋市に対し2,500万円の寄付があり、これをもとに建設されました。当時市立図書館は、鶴舞・栄(現在の西図書館)の2館しかなく、市の周辺部における図書館の設置には各方面から要望がありました。

当時珍しかった全開架制を導入し、工業地に近いため理工書がさかんに読まれ、多くの児童にも利用されました。その後も増築や模様替えなどを行い、読書・学習支援サービスの向上を図りました。

2001(平成13)年10月9日、JR熱田駅近くに新築した熱田区役所等複合施設内に移転し、現在の図書館が開館しました。「熱田資料コーナー」では、熱田区関係資料を収集するとともに、歴史や史跡について展示パネルでわかりやすく解説しています。また、岩波文庫を多数所蔵しています。明るく使いやすい図書館として多くの方にご利用いただいています。



熱田図書館(旧館)



旧館開架書庫



熱田資料コーナー

## 南図書館【南区】

1963(昭和38)年、太平製作所社長田中均一郎氏より勤労青少年に憩いの場として映写、講演等のできるホール兼備の図書館を建設して寄付したいとの意向があり、1964(昭和39)年4月30日に名古屋市に寄付され、5月1日に開館しました。1973(昭和48)年には、名古屋市南部地域へのサービスを行うため、巡回文庫(今の自動車図書館)の基地が設けられました。

1993(平成4)年3月21日、南図書館は、名古屋市2番目の文化小劇場との複合施設として新たにスタートしました。新館には旧館にはなかった対面読書室、視聴覚ブース、おはなしの部屋などが設置されました。また、南区は1959(昭和34)年に東海地方を襲った伊勢湾台風の被害が甚大であったため、自然災害についての意識を新たにすることと、防災の啓蒙活動の推進を目的として「伊勢湾台風資料室」を設置しました。災害の書かれている社史や学校史の他、被災写真、フィルムなど、市民からの提供を含めた資料を集めています。



南図書館(旧館)



伊勢湾台風資料室

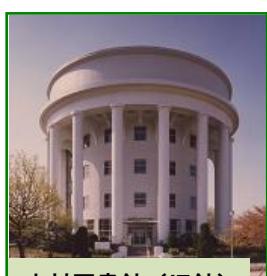
## 東図書館【東区】

1965(昭和40)年7月1日、東区徳川町の葵公園に5番目の図書館として開館しました。建物は尾張徳川家に伝わる貴重資料を保有する蓬左(ほうさき)文庫と一部共有で、1階に小中学生室・書庫、2階に一般閲覧室・雑誌コーナーを設けました。1971(昭和46)年に3階を増築し、学習室・展示室を設け、たくさんの学生で賑わいました。当初、読み物を中心の6,000冊でスタートした資料も年々充実を図り、調べ物にも役立つ図書館となりました。



東図書館(旧館)

2001(平成13)年10月26日、ナゴヤドームの北側「カルポート東」に移転し現在の図書館が開館しました。地下鉄・ナゴヤドーム前矢田駅すぐの交通至便な場所です。スポーツ関連図書をたくさん集めた「スポーツ資料コーナー」や、地域の高校生のアイディアも活かした「ティーンズ・コーナー」があります。



中村図書館(旧館)

1965(昭和40)年7月15日、水道の配水機能が取りやめになった稲葉地配水塔が図書館として生まれ変わりました。古代ギリシャの神殿を模したといわれる外観で親しまれ、4階(後3階へ移設)には「民具・民俗資料室」も作られています。1989(平成元)年には、名古屋市の都市景観重要建築物に指定されました。しかし、老朽化とバリアフリー上の問題もあり、図書館は移転することになりました(現在は演劇練習館として活用されています)。



中村図書館



絵本太閤記

1991(平成3)年5月31日、中村公園文化プラザに移転しました。複合施設の1号館で、図書館のほか、秀吉清正記念館、中村文化小劇場が併設されています。豊臣秀吉、加藤清正関係資料を収集した「秀吉清正コーナー」には江戸期の『絵本太閤記』もあります。

## 港図書館【港区】

1967(昭和42)年4月27日、名古屋汎太平洋平和博覧会(1937・昭和12年開催)の会場跡地に造成された港北公園の一角に、7番目の図書館として開館しました。その後、1971(昭和46)年には地下鉄名城線(現名港線)の金山—名古屋港間の開通により、図書館のすぐ前に「港区役所」駅ができ、便利になりました。1975(昭和50)年には、3階部分が増築されました。

1999(平成11)年9月17日、現在の建物が開館しました。

2階には、青を基調に海のイメージを演出した「海と港の資料室」を新設し、海や港に関する本や雑誌、解説パネル、船のミニチュア模型、地球儀、海図などの展示により、海や港に親しみをもてるよう工夫しています。地下鉄出口すぐの立地であり、視覚障害者の方の対面読書サービス(予約制)利用にも便利です。



港図書館(旧館)



海と港の資料室

## 北図書館【北区】

1967(昭和42)年6月15日、北陵中学校に隣接して8番目の図書館として開館しました。当時はオーディオがあまり普及しておらず、夜間にレコード・コンサートを行ったり、工場で働く若い人たちを対象に区内の事業所に北区勤労青少年文庫を設けたりするなど、読書や文化と区民をつなぐサービスを展開しました。

2000(平成12)年6月30日、旧館から現在の東志賀公園隣に移転し、北文化小劇場と共に建物に現在の図書館が開館しました。その昔、名古屋城下と犬山を結んだ街道の一つである稻置(いなぎ)街道が通っていたため「街道と旅のコーナー」には、各名所図会や旅の本を多く集めています。また市立西部医療センターと連携し、「医療情報コーナー」でより詳しい医療関連の図書の提供や、医療講座などを行っています。



北図書館



医療情報コーナー



千種図書館

## 千種図書館【千種区】

1968(昭和43)年10月8日、東山公園の北側斜面に9番目の図書館として開館しました。閲覧室は2階で、家庭や育児に関する本を集めたコスモスコーナー・参考図書コーナー・児童コーナーなどを設けました。

周辺に人家が少なく図書館を利用しにくい子ども達が大勢いたため、ライブラリー・バスを運行しました。ライオンズクラブなどの厚意で提供していただいたバスが、区内の各ポイントを巡回し、小学生や希望する方々を図書館へと運びました。1970(昭和45)年から2年間運行されました。

現在、東山公園に隣接する立地をいかし、講座や展示を動植物園と連携して展開しています。名古屋に生まれた日本第一号の理学博士・伊藤圭介に関する資料紹介、動物園内での動物絵本の読み聞かせなど、幅広い方々に参加いただける企画をすすめています。



ライブラリーバス(中日新聞社  
提供。中日新聞1970年6月3日)

## 瑞穂図書館 【瑞穂区】

1969(昭和44)年8月1日、10番目の図書館として開館しました。区内で初めての社会教育機関で文教地区という立地もあり、一時は資料貸出数が日本で一番多い図書館となり注目されました。ヤングコーナーやレディースコーナーの設置、予約制度の実施など住民の要望を積極的に取り入れた運営で幅広い方々の便を図りました。



対面朗読（毎日新聞社提供。  
毎日新聞 1979年3月13日）

1979(昭和54)年3月1日、視覚障害のある方に向けたサービスとして対面朗読（現在は対面読み書き）を開始しました。名古屋では当時、障害者向けには点字翻訳やカセットテープの提供しかなく、利用する方の希望する本を目の前で直接読み上げる対面朗読は心の通うサービスとして好評で、現在に継いでいます。ボランティアの方々の協力をいただいています。

現在は幅広い年齢層の利用者に、本や図書館に親しんでいただくための行事を行っています。また、瑞穂区の区政運営方針「子育て支援の充実」に協力し、区役所主催の子育てサロンや保健所の事業にも参加しています。

## 中川図書館 【中川区】

1970(昭和45)年6月20日、11番目の図書館として松葉公園のなかに開館しました。当時、区内には文化施設が未設置だったため、地域の文化センターとして期待されました。多くの方々に利用され、展示会、講演会、映画会、工作教室などを頻繁に開催するとともに、図書館で活動する読書会やボランティアグループも結成されました。



中川図書館

1979(昭和54)年10月より、図書館から遠い地域の方々を対象とした自動車図書館・わかくさ号の運行が始まりました。当初は、中川区・港区や、北区と西区の一部地域を巡回していました。

2002(平成14)年11月1日、荒子観音近くの現在の場所に移り新装開館しました。川の多い中川区にちなんだ「川と花と緑のコーナー」や荒子出身の「前田利家の本」コーナーなど地域の魅力をお伝えする棚づくりを心がけています。2012(平成24)年11月にはマスコットキャラクター「あらっこ」が誕生し、中川区民まつりや館内の掲示物に登場するなど、その知名度と人気はぐんぐん上昇中です。あらっこはじめ職員一同、地域に愛される図書館となるよう魅力的な図書館づくりに励んでいます。

## 守山図書館 【守山区】

1972(昭和47)年8月10日、旧守山区役所(元守山市役所)の跡地に12番目の図書館として開館しました。守山区は1963(昭和38)年に旧守山市が名古屋市に合併して誕生しました。地域から読書・文化活動の拠点として期待され、絵画の展示会、文化講演会、読書会を行いました。



守山図書館

守山区は2013(平成25)年2月で区制50周年を迎えました。現在までに建物や空調設備などが一部改修され、構成は児童コーナーが1階に移動し、2階は参考室と変わりました。公園であった館の西側部分は駐車場に変わっています。開館以来、40年以上が経過しましたが、地域に根ざした図書館として親しまれ利用されています。

## 緑図書館 【緑区】

1972(昭和47)年8月12日、13番目の図書館として緑高校の一角に開館しました。区内は、桶狭間古戦場、東海道にそった鳴海や有松の町並みなどの史跡に恵まれており、史跡探訪などを頻繁に行いました。また、入り口付近の展示コーナー(現在は新聞・雑誌コーナーに改修)では、地域の方々の協力を得て各種展示会を行い好評でした。開館時約10万人だった区の人口は、現在23万人に達しています。開館前は周辺に住宅が少ないと利用が少ないのではないかと心配されましたが、実際には2010(平成22)年に区内2館目の徳重図書館が開館するまでは、名古屋市で最も多く利用される図書館となっていました。



緑図書館

開館以来40周年を迎えたが、少しでも利用しやすくするためにレファレンス(相談)カウンターの設置など施設の改善を図っています。2012(平成24)年には、積層部分の図書の大移動を行い、くらしのコーナーを拡充しました。緑区資料コーナーや子育てコーナーには、市販されている図書だけでなく、区内で活発に活動しているグループの会報などもあり、たくさん利用されています。

2階にある学習室は120席あり、中高生をはじめ多くの方に利用されています。図書館の建物は丘の上に位置することもあり、のびゆく緑区の街並を一望できる景色も自慢のひとつです。

## 名東図書館 【名東区】

1975(昭和50)年に千種区から分区して名東区が誕生しました。その後、1976(昭和51)年6月15日に名東図書館が開館しました。図書館開設にあたり住民の方々の意見をできるだけ反映させようと、建築現場に「希望の箱」を設置し、様々な意見を参考にしました。



名東図書館

また当時の名東区は交通不便であったため、自動車図書館の要望も多く寄せられ、1978(昭和53)年12月には名東図書館巡回文庫「あおぞら号」の運行も始まりました。昭和50年代には中日ドラゴンズの展示がおこなわれ、浜松でのキャンプの写真やサイン色紙などがたくさん出展されました。地域の防災訓練の写真展や手づくりの絵本の展示等も行われ好評でした。



出前教室

名東区は居住者の平均年齢が若いため図書館の利用は大変多く、名古屋市の分館ではトップクラスの資料の貸出数となっています。様々な児童向け行事開催のほか、「ティーンズ・コーナー」の充実を図ったり、図書館の外に出向いて地域の方々に図書館の説明する「出前教室」を開いたりするなど、より使いやすく親しまれる図書館を目指しています。

## 天白図書館 【天白区】

1977(昭和52)年11月18日、15番目の図書館として住宅供給公社の中層住宅の1階に開館しました。2年前に昭和区から独立した区の中心に位置し、住宅地という立地のため小中学生など児童の利用が多く、開館1年の資料貸出数は約50万冊と当時日本有数でした。開館にあたり設計段階から地域の方々と話し合いを持ち、使いやすい図書館として好評を得ました。また、天白図書館の完成を持って中区を除く全区に図書館が完成しました。



建設中の天白図書館

開館時から要望の多かったマンガを資料の1つとして位置づけています。今ではマンガのある図書館は珍しくありませんが、当時はマンガを問題視する風潮もあり、全国的に知られました。

現在、「ティーンズ・コーナー」では10代のみなさんにご利用いただけるよう小説や進路など様々な本を用意しています。同時に、児童サービスにも力を注いでおり、区の「子育て広場」などでは絵本や図書館について紹介しています。あわせて展示会や講演会などを行い、地域の方々に親しまれています。



天白図書館 1978年8月

## 富田図書館【中川区】

1997(平成9)年7月8日、中川区の富田地区の図書館として開館しました。楠図書館とともに支所の区域に初めて開設された図書館です。富田地区は、1955(昭和30)年に名古屋市と合併した旧富田町にあたります。緑豊かな環境には、現在も由緒ある寺院が点在しています。

地域資料コーナーでは、年表や富田町の地図、昔の様子がわかる航空写真を展示しています。また、野球・芸能・文学・健康など様々なテーマ展示を行い、みなさまが幅広い本との出会いを持てるよう工夫しています。



富田図書館



地域の資料

## 楠図書館【北区】

1997(平成9)年7月10日、北区楠地区の図書館として開館しました。楠地区は1955(昭和30)年に合併した旧楠村にあたります。日常の暮らしに役立つ本・読み物・児童書を中心に収集しています。



子ども狂言講座



資料展示

## 南陽図書館【港区】

2002(平成14)年7月12日、18番目の図書館として開館しました。南陽地域は市内随一の農業地帯であり、図書館の南側にも広大な田畠が広がっています。戸田川沿いに広がる緑地、ラムサール条約に登録されている藤前干潟もあり、自然豊かです。新しい図書館ですが、今後とも地域密着型の図書館を目指してサービスに努めます。



南陽図書館

南陽地域は江戸時代中頃まで海でしたが、1640年頃から1822年にかけていくつもの新田開発・干拓事業が行われ、現在の地域の母体となる九つの新田が誕生しました。その後、統廃合を繰り返し、1906(明治39)年に南陽村となりました。伊勢湾に面した暖かい土地柄であるため“南の陽(ひなた)”という意味で名付けられた、とされています。



常設のパネル展示

## 志段味図書館【守山区】

2004(平成16)年7月15日、19番目の図書館として自然がまだ多く残っている守山区の志段味(しだみ)支所管内に開館しました。

管内の上志段味エリアには志段味古墳群があり、発掘、研究も進んでいます。志段味図書館では2011(平成23)年から文化財保護室との共催により、志段味古墳群から出土した埴輪の実物や地域の古墳を紹介した図書の展示、クイズラリーなど、親子で地域の歴史に関心をもっていただくためのイベントを実施しています。

## 山田図書館【西区】

2005(平成17)年5月6日、西区役所山田支所新庁舎の建設にあわせ、山田支所3階に20番目の図書館として開館しました。

山田地区は、1955(昭和30)年に名古屋市と合併した旧山村にあたります。1990年代以降、地下鉄鶴舞線・名鉄犬山線の上小田井駅開業や東名阪自動車道の開通などで住宅地化が進み若年層が多いため、乳幼児サービスや小学校での読書活動支援に力を注いでいます。

西・山田コーナーでは、山田地区に関する資料を集めている他、地形図などを掲示するとともに地区の歴史をまとめた小冊子を配布し、地域を理解していただけるようにしています。

一般コーナーは、「生き方」「社会・技術」「日本・海外」「くらし・家族」「地球・生物」「芸術・スポーツ」などテーマ別に棚を構成し、使いやすい図書館となるよう心がけています。

## 徳重図書館【緑区】

2010(平成22)年5月6日、緑区役所徳重支所の開設にあわせて21番目の図書館として開館した一番新しい図書館です。徳重支所や地区会館と同じ「ユメリヤ徳重」3階にあります。

小規模館ですが、地下鉄駅、バスターミナル、ショッピングモールに隣接し、便利さが好評です。名古屋市図書館唯一の火曜休館、閉館後に貸出資料を受け取れるロッカーといった、他にはないサービスも行い、地域に親しまれる図書館を目指しています。暮らしや仕事に役立つ本、徳重や緑区に関する本の収集に努めています。

また、子育て世代の方のご利用が大変多いため、子どもの本の収集や子ども向け行事に力を入れています。「おはなし会」「ユメリヤブッククラブ」では、楽しい本をたくさん紹介しています。

「徳重図書館だより」では、司書による本の紹介をはじめ、行事や展示など、役立つ情報をご案内しています。



古墳関係資料の展示



志段味図書館



山田図書館



西・山田コーナー



子どもによる本の紹介（山田）



徳重図書館